

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3170400182
法人名	社会福祉法人 境港福祉会
事業所名	グループホーム タ日ヶ丘
所在地	鳥取県境港市夕日ヶ丘2丁目100番地 (電 話) 0859-47-2277

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル		
訪問調査日	平成20年7月4日	評価確定日	平成20年8月4日

【情報提供票より】(20年6月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 5 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤 7 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.0	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋造り
	階建ての 階 ～ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	66,360 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	500 円	昼食 500 円
	夕食	400 円	おやつ 80 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.55 歳	最低	58 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	済生会境港総合病院、小徳歯科クリニック、(医)厚生会 中海病院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

境港市の夕日が美しい新興住宅地の一角に建てられたグループホームは、木造のゆったりとした空間で、落ち着いた表情で利用者の方たちが暮らしておられる。職員も優しい眼差しで利用者として接しており、各々の役割分担をこなしながら、利用者一人ひとりの人生観を大切に、働いておられる。施設長始め管理者、リーダー、職員の皆さんが仕事に情熱を持ち、施設の理念やケア方針を共有しながら、日々のケアに取り組んでおられる。昨年、2ユニット拡張に伴い、地域密着型サービス「認知症対応型通所介護事業所」を併設事業所として新設し、地域に開かれた事業所として、サービスの質の向上を目指して努力を惜しまない職員の姿勢が印象的であった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の要改善点11項目のうち6項目が改善されている。残り5項目も改善に取り組み中であり、今後の努力に期待するところである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で取り組み、新規職員には管理者から評価の説明がなされ、真剣に取り組まれている事が確認できた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度定期的に開催されていて、運営推進会議の有効な点も実感されている。情報交換、入所紹介、感染症対策や2番館の現状報告がされている。また今後のケア向上の取り組みが討議されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月の便りで利用者の暮らしぶりが報告されている。金銭管理や健康状態は面会時や電話で随時行われている。家族アンケートからも安心の声が聞かれた。意見箱にも一度位しか、意見が入ってきていないが対応は柔軟にされている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	新興住宅地であるため自治会集会の場に施設を提供されており、地域との関係作りに努力されている。今後も地域の交流の場所として担っていきたいと言う意向を持っている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設の理念は食堂にも掲示されているが、地域密着型サービスとしての理念には変えられていない。地域交流を図り、地域密着型サービスの理念に取り組んでいきたいと検討中である。	○	ホームの立地条件的に、まだ新しい造成地であるという難しい問題もはらみながら、地域密着型サービスの意義を職員全員で理解を深め、地域に根差した支援を含んだ理念を検討されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時、施設理念を復唱し職員間で共有し日々のケアに理念が反映されている。		新任職員に指導をしながら、現任職員や管理者も理念の共有・日々の取り組みに対する振り返りを行いながら・・・実践に向け励んでおられる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域にまだ公民館が無い為、自治会の集会に施設を開放し、公民館の役割を担っている。納涼会の実施、地域の保育園との交流や市域のボランティア活動の発表の場として提供し、交流に努めている。	○	今後も地域に施設を提供することで、密着した関係作りを継続して頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員で取り組まれており、前回の外部評価に対しても具体的な改善に取り組まれている。施設拡大により職員の移動があり、新任職員が十分な理解ができなかったため、再度評価の意義を理解できるよう説明がなされた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。市職員、民生委員が参加。感染症や2番館の現状報告が行われた。入所者の高齢化、重度化のケアの情報交換の場として対応されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長を中心として定期的に市役所に出向いて担当者とサービスの質の向上の取り組みや連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の広報誌で行事や利用状況や健康状態を報告している。面会時や緊急時にはその都度報告がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談窓口が明記しており、説明も行っている。入り口に苦情箱が設けてあり、家族等に不満や意見を聞くように努めておられる。意見として1回入った折は、しっかりと対応されている。		家族会等で家族が意見や不満を表せる機会を設け、何でも話し合える・相談できる体制作りが必要と考えられる。職員や管理者と家族間で何でも話し合える関係作りが出来ていれば、苦情も相談へと変わる事もある様に思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設拡大に伴い職員の半数が移動となったが、なじみの関係が薄れることなく綿密な引きつぎが行われ、突然な環境変化や不安が起こらないよう配慮されている。また、各ユニットの対応がスムーズに行われるように現任職員の勤務体制を各ユニットに配置し、利用者へのダメージを必要最小限に防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設の掲示板に各研修案内が掲示しており、事業所に必要な研修は受講できる仕組みがある。また、職員の自主的な研修等には参加の調整がされることもある。		相互研修は毎年参加されている。職員間で研修結果の話し合いが行われている。研修内容・結果報告が記録で共有できるようなシステムが必要と考える。年間の計画表も是非作成して欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会内での定期的な交流や相互研修に参加している。他施設見学を行いサービスの向上が図られるよう努力されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前のアセスメント、家族や利用者と相談を重ね、入所前から信頼関係を作りに努めている。家族に使い慣れた家具等あれば持込の依頼し、事情によっては、急いで入所を希望される場合もあるが、家族と良く相談しながら工夫している。		認知症対応デイサービスセンターも新規併設された事から、事業所に馴染みながら入所へ繋げるケースへの取り組みに期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有・支援している。傾聴や経験による知識等がケアに反映し支えあう関係作りが作られている。介護度が上がって行く中で、職員は一人ひとりの利用者の方々と向き合い、喜怒哀楽を共にしている事が伺えた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートにより本人の意向やその人独自の生活暦、個性や現在の心身状態を把握しながら、利用者一人ひとりの思いに添いながらのケアがなされている。暮らし方の希望は、中々、本人の言葉としては出てきていないが、職員は日々の暮らしの中で、把握・検討している。		個々の状態や思いが的確にとらえるようアセスメントシートを用いて、本人や家族、関係者からの情報を得ることが行われている事が伺えた。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族に思いや意向を聞き、反映されるような計画書を作成されている。施設独自のアセスメントで担当や職員会議、棟会議でカンファレンスを行い、利用者の介護計画が作成されていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じてモニタリング・見直しが行われている。変化が生じた場合にはその都度速やかに検討を行い介護計画の変更が行われている。		介護計画の変更が速やかに、柔軟に行われるようアセスメント用紙に的確に記入できるよう独自の様式を作成している。今後さらに活用され利用者本位のよりよい介護計画書が作成されることが期待できる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設の増築に伴い認知症対応デイサービスが出来たので、デイサービス利用者の方と交流を図り、一緒にレクリエーションに参加されよい関係作りをされていた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望される医療機関の受診支援や、嘱託医の往診時には、健康状態や相談内容等を事前にファクスで送り関係づくりを密にしている。結果は随時家族に連絡し、職員も共有できている。また利用時に説明がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた支援のあり方については、本人や家族、かかりつけ医等と話し合いがなされ、方針の共有は図られている。状況変化があればその都度話し合える体制や急変時の連絡体制があるので対応が速やかに行える。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りを傷つけないよう丁寧な声かけが行われていた。記録や個人情報の理解・取り扱いにも十分配慮がなされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に合わせて、生活できるように配慮されている。利用者が生活に対する希望の意思表示をあまりされないという現況、重度化していく現実の中でも静かで落ち着いた生活が出来るようにケアがなされていた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせて盛り付け、食器拭や下膳などの片づけを行っているが、施設拡大により調理への参加が少なくなったきたと職員より話された。		今後おやつ作りや食材を切ったりできることの支援、作ることの喜びや機能の維持に努められ認知症の進行をすこしでも遅らせることができるような取り組みに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回と入浴日・時間が決められている。利用者が希望すれば毎日入浴、時間外入浴も可能である。湯温や湯量は希望に合わせて調節が行われている。		今後は職員の勤務体制や支援の検討をされ、希望者には午前入浴や夜の入浴も楽しめる様な支援・工夫の取り組みに期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の重度化もあり散歩以外の支援が少ないと職員が話される。役割りとして洗濯たたみをされていた利用者もあった。	○	趣味の作品がホールに飾ってあるので作品づくりのできる方は職員とできる部分を作成できるよう取り組みをされたい。さらに一人ひとりの楽しみや役割を見つけたり、場面設定をするなどの支援を続けることが大切と思われる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩とかしていないとの事であったが、外出支援は少ないように感じた。春、秋の季節の良い頃に、もっと外出支援をしていきたいと言う職員の気持ちが伝わってきた。	○	施設の周りの散歩だけでなく、車を利用するなど他の場所の外出支援の取り組みを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室共。施錠は行われていない。全職員日中鍵をかけない支援を行っている。戸外へ出ること転倒が予測できる方は転倒防止に努め職員の付き添いで安全を図っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜の火災を想定し、年2回の防災訓練を行っている。AEDの使用手順の受講済みである。災害時の備蓄は確認出来なかった。	○	災害時の食料、水の確保がなかった。飲料水の備蓄は必須の為、早期整備される事を望む。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて、刻み食、普通食と工夫されていた。水分量、食事量共に個人記録に記入されている。水分摂取が不足な方は好みの物やお茶ゼリー等で水分不足を補っている。部屋で食べた人も一人おられて、快く対応されており感心した。		水分や食事量のチェックがあり記録で情報を共有しケアに生かしている。今後も継続されよりよいケアに取り組まれる事に期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルには季節の草花が飾られていて、木造のゆったりした空間で居心地良く暮らしておられる。不快な音や匂いもなく、清潔感を感じた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室もとてもきれいに整えられていて、収納空間が大きいことに感心した。また、個々の状態に応じて畳を敷く等、決め細やかな配慮がなされている。また、使い慣れた筆筒やテレビを持ち込み居心地よく過ごせるような工夫がされていた。居室の入り口は本人の好みの、のれんがかけてあった。		